

# 平成 15 年一番茶実収報告

京都府立茶業研究所

## 1. 摘採日

仕立て法	本年	前年	前 5 か年	平年
自然仕立て	5月6日	4月28日	5月4日	5月8日
弧状仕立て	5月6日	4月28日	5月4日	5月7日

注) 平年は、自然仕立て：昭和48年～平成14年までの30年間、  
弧状仕立て：昭和62年～平成14年までの16年間の値

## 2. 生葉収量 (kg/10a)

仕立て法	本年		前年		前 5 か年平均	
	収量	指数	収量	指数	収量	指数
自然仕立て	776.5 ± 42.0	138	570.3 ± 97.5	101	563.9 ± 130.2	100
弧状仕立て	364.8 ± 60.7	100	348.2 ± 82.6	95	365.9 ± 71.8	100

## 3. 百芽重 (g)

仕立て法	本年		前年		前 5 か年平均	
	重量	指数	重量	指数	重量	指数
自然仕立て	61.5 ± 5.4	126	50.4 ± 5.7	104	48.7 ± 5.2	100
弧状仕立て	79.5 ± 15.1	153	41.3 ± 4.4	80	51.8 ± 7.6	100

## 4. 新芽数 (本/m<sup>2</sup>)

仕立て法	本年		前年		前 5 か年平均	
	新芽数	指数	新芽数	指数	新芽数	指数
自然仕立て	601.8 ± 84.8	129	387.8 ± 82.4	83	467.1 ± 71.2	100
弧状仕立て	971.7 ± 170.0	64	1533.3 ± 325.2	101	1513.0 ± 355.7	100

注) 自然仕立ての数値は、20cm幅帯摘みの新芽数

## 5. 出開き度 (%)

仕立て法	本年	前年	前 5 か年平均
自然仕立て	68.8	36.3	49.0
弧状仕立て	41.0	57.5	56.1

## 6.概要

### (1)摘採期

本年の一番茶摘採日は、両仕立て園とも5月6日となり、前年及び前5か年平均と比べ、それぞれ8日、2日遅かった。

### (2)生葉収量

10a当たりの生葉収量は、自然仕立て園が777kg、弧状仕立て園が365kgであった。特に自然仕立て園では、前5か年より摘採がやや遅れたため(出開き度69%)、生葉収量が138%となった。

収量構成は、弧状仕立て園で芽重型の傾向となった。

### (3)病害虫の発生状況

一番茶新芽への病害虫の発生は少なく、実害はなかった。

### (4)周辺茶園の状況

萌芽～生育初期の段階では、各地とも平年並み～やや遅めの状況であったが、4月中旬以降、高温に推移したため、生育は順調に進んだ。その結果、摘採開始期は、平年並み～やや早くなった。

収量性については、全般的に平年比やや多い傾向となっている。

病害虫に関しては、全体的に平年並みの発生であった。

また、一部地域では5月10日の降霜により被害が発生した。